

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

こころが育つステキな出会いを

第29回 大阪の障害児教育を よくする会総会

6月11日、大阪府教育会館において、第29回大阪の障害児教育をよくする会総会が開催され、府内各地より11団体42人が参加しました。第1部の総会では、2017年度の活動方針案・予算案・総会アピール・役員体制が承認されました。第2部では学習会を行い、近藤直子さん(あいこ障害者センター理事長)が親も子も今より楽になるために」と題して講演しました。

教育を少しでも良くするよう声を上げ続けよう

開会あいさつの中で副会長の中川真早実さんは、府立支援学校の知的障害児童生徒数が、今後10年間で現在より1400人増えるとの推計値を出しながら、それについて何の対策も示さない府教委の姿勢を批判しました。その上で「障害のある子どもたちすべてが、少しでも良い環境で教育を受けることができるよう、今後も声を上げ続けましょう」と訴えました。

来賓として出席した、宮原たけし府議会議員(日本共産党)は、「府民一人ひとりの存在を大切にすると、政治の原点が忘れ去られてきてい



講師の近藤直子さん

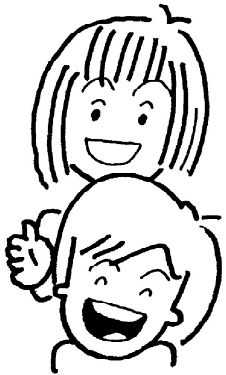
「ココロ」を育てるプロセスこそが発達

第2部の学習会講師の近藤さんは、「できることが増えることが発達ではなく、何が好き、何をしたいどんな時にワクワクし悲しくなるのか等、その人らしい「ココロ」を育てるプロセスが発達だと述べました。自分自身の「ココロ」が育ち、自分のことを「ステキだな」と思って生きていきたいと願うのは、子どもだけでなく大人の願いでもあります。いつも自分のことをステキに思える人は多くありません。

近藤さんは、「こころが育つステキな出会い」の大切さを強調しました。子どもが自分と周りの人を好きでいられば、好きな人と一緒に新しいことに挑戦しようと思えます。子どもがステキな出会いに恵まれるためにどうするかを考え、しっかり子どもたちを応援して欲しいと、近藤さんは訴えました。

発達の土台となる生活の保障について近藤さんは、四つとりくみ(基本)に大切だとしました。昼間の充実した生活をつくるために、地域の中に何が必要かを考え合おう。寛げる家庭生活は、自己安定感を保障する。家族が寛ぐための家族支援を行う。大人になることを喜びとできる生活の保障。例えば、好きなことを一緒に楽しむ仲間を持つ場所をつくる。一人で悩む親をつくらないように、地域に保護者が相談できる場所を保障する、というものです。近藤さんは、こうした課題が大阪でも前に進むよう頑張ってくださいと、参加者を励ました。

参加者からは、「子どもは学校があまり楽しいと思っていないので、親としては毎日心配だ」「色々と自分の子育てのことを振り返りながら、考えさせられること(反省も踏まえて)がいっぱいあった」「子どもが大好きな信頼できる先生になってもらえるよう、先生方にも少し余裕があればいいの」と思っていた「教員としてどんな専門性を学び深めるか、保護者や周りの人とどうつながっていくのかを、考えさせて頂いた」等の感想が寄せられました。



大障教ホームページアドレス <http://www.1a.biglobe.ne.jp/fushou/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



厚生労働省が6月2日に2016年の人口動態統計を公表しました。女性1人が一生に産む子どもの数の推計(合計特殊出生率)は1.44となり、前年からさらに0.01ポイント下がりました。日本の合計特殊出生率は、1971年の2.16を境として長期的な下降傾向にあり、1989年に1.57まで低下した時には、少子化が社会問題として国民に広く認識されるようになりました。出生数は97万6979人で、人口動態統計を始めた1899年(明治32年)以来、初めて100万人を下回っています。

内閣府が2015年に実施した国際比較調査によると、日本では、子どもを増やさない・増やせない理由のトップに「子育てや教育にお金がかかりすぎる(50%)」が挙げられ、諸外国と比べて突出しています。働きながら子育てができる職場環境が無い、保育サービスが整っていない」との回答が多いことも、他国に無い日本の特徴です。この現状に根本からメスを入れずに、安心して子育てのできる社会は実現できません。

安倍内閣は、深刻な保育所待機児問題について、2017年度末の「ゼロ」実現の目標を3年後に先送りしただけでなく、保育士の待遇改善などにも背を向けています。「働き方改革」の中身も、異常な長時間労働を容認し、正規・非正規の賃金格差を固定化するものとなっていて、子育て世代の願いに真っ向から逆りつものです。国会閉幕後の記者会見で安倍首相は、人口減対策を念頭に「人づくり革命」を強調しました。しかし、「共謀罪」法強行直後の発言では、何の説得力もありません。

大障教定期大会発言ダイジェスト(その4)

寄宿舎のさらなる充実・発展を

北視覚支援学校分会 横山代議員



府教委と大阪府教委は、府移管に際して寄宿舎を利用している児童生徒には不利益が生じないようにしていくと説明していました。ところが、北視覚支援学校では、2016年度途中に入舎基準が一方的に変更され、9月から8名の入舎が取り消され、通学生9名の週1泊の寄宿舎利用が認められなくなりました。

これに対して複数の保護者が立ち上がり、大阪府に対して不服審査請求を提出しました。市障教は分会と連携し、保護者の思いに寄り添って支援しました。府教委と学校長は、反論書を提示しましたが、明らかに不利益が生じた児童生徒に対し、緊急一時的に寄宿舎での宿泊を認めさせることができました。また、次年度に向けた入舎認定時には、入舎を取り消さ



臨時教職員問題対策部 玉城代議員

願いは同じ！子どもの笑顔を輝かせたい！

もたくさん新規採用され、現在も職場で活躍されています。しかし、正規採用もされずに取り残されている先生方もいます。待遇改善がなかなか進まない中、2015年度に「空白」期間が8日以内の方については、厚生年金保険と健康保険の資格が継続されることになり、1か月以上健康保険証を待たされることがなくなりました。道理と運動があれば実現しよう。

府教委は交渉の中で、「講師の給与改善等は、正規採用の門戸を大きく開く事によって行いたい」と述べ、それまでの年齢制限を事実撤廃すると言いました。その後、色々な変更が行われる中で、45才以上の先生方が府障教の職場で

共に考えてくれる仲間がいるのが組合

東住吉支援学校分会 平部代議員



東住吉支援学校は4年前、旧大阪市立矢田小学校の跡地に開校しました。肢体不自由教育部門と知的障害教育部門がありますが、支援学校としての改修は極めて不十分なものです。特に知的障害教育部門のトイレ不足は深刻で、長蛇の列ができることもあり大変困っ

ています。また危険防止対策として、すべての窓が10センチしか開かず、空調設備のない特別教室では、夏季の室温が40度を超えることがあります。学校の施設設備はすべて小学校仕様になっていて、中学部高等部の生徒にはすべてが「小さい、低い」という不便さがあります。

市障教の時代から「分会員が実践の要！」を合言葉に組織拡大にとりくんできましたが、現状は大

支援学校の栄養教諭の複数配置を

栄養教員部 武田代議員



対府交渉では、支援学校での栄養教諭の複数配置と、寄宿舎を併設している旧大阪市立学校への2名配置を訴えました。府立支援学校の栄養教諭は、給食を実施している旧大阪市立11校も含めて、

36人います。専門職で、一人職種の栄養教諭を今まで以上に助けていただきたいと思います。全国で給食を実施している学校は約3万校ありますが、うち2万校には栄養士がありません。全教は、1校1名の配置を求め、「文科大臣宛要請署名にとりくんでいますので、ご協力をお願いします。また、「栄養教諭の代替は栄養教諭で」という要求も切実です。

栄養教諭が、産休・育休を取った時の代替は臨時技師が配置されまもありません。産休直前まで、大きなお腹で調理場に入っています。元気で仕事することが当たり前から考えられているのです。これから若い人が増えていく中で、流産などで急に休むことになれば、アレルギー対応などができなくなります。こうした現状を分かっていたきたいと思います。